

園長室だより

令和3年度 第2号（5月31日発行）大阪市立立葉幼稚園長 福澤 郁子

緊急事態宣言の中、午前保育が続いた5月。宣言は延長されましたが、ゆり組・ばら組は通常保育が戻り、もも組もお弁当が始まり、幼稚園の日常を取り戻しつつあります。いろいろな制限はありますが、今、できる保育を実践しています。

5月の様子をお知らせします。この写真は記録写真として撮っていたり、先生たちの研修の為に撮っていたりするので、写っている子どもも、そうでない子どももいろいろかと思います。子どもたちの遊びの雰囲気を感じていただければと思い、載せておきますので、ご容赦ください。

親子栽培(夏野菜)



早い梅雨が始まった5月18日、19日。小雨の中でご協力いただいた親子栽培。子どもたちは、夏野菜を選び、植木鉢に立てるカードの絵を描いて、植える日を楽しみしていました。これから毎日、自分の野菜の世話をしながら、葉や茎が生長する様子を見守る中で、いろいろな発見や気付きをすることと思います。花が咲き、枯れ、その後に実が成り、大きくなつて収穫するその日まで、降園時に一緒に見て、思いに寄り添っていただけたらと思います。



苗を植えるまでの活動



植木鉢の外側をきれいに雑巾で洗っています。次に植える夏野菜への期待も膨らみます。



エダマメの葉っぱ。
フワフワしてるね。



きれいになった植木鉢をもも組とばら組に届けました。
ゆり組「夏野菜で使ってね」
ばら組「きれいにしてくれてありがとう」



親子栽培という一つの活動を通して、子どもたちが自分たちで準備をして取り組む中で、いろいろな自然にふれたり、気付いたりすることがたくさんあります。

また、このコロナ禍で、直接的な異年齢交流が制限されていますが、間接的な交流はたくさん行っています。ゆり組は、年長児としての役割を意識し、責任をもって全員の分の鉢洗いを頑張りました。その姿をばら組やもも組に知らせることで、ばら組やもも組は、してもらった感謝の気持ちをもち、相手に「ありがとう」を伝えます。ゆり組はお礼を言われてやり遂げた満足感や充実感を味わうことで自己肯定感を高めます。

こういった気持ちのやりとりができるよう教師が意識をもつことで、一つの活動から子どもたちの育ちがたくさん育まれるよう保育を実践しています。

ゆり組が、昨年度の植木鉢をひっくり返し、土づくりの準備をしています。ミミズや根切り虫が出てきて、そうつと逃がしあげていました。